

⑱ **和朗フラット 麻布台 3-3-23**

「和朗フラット」は、「ここに縁ある人が和やかに朗らかに」過ごせるようにとの願いが込められ、1936年に建てられた洋館づくりの賃貸アパート。当初は7棟あったが空襲などにより3棟が消失し、残った4棟を一号館～四号館とした。一般住宅のほか、カフェやギャラリー\*としても使われている。設計は上田文三郎で、1879年生まれ、農業研究者である。

\*常時開催でないため、HP等で確認が必要



⑳ **永坂更科 麻布永坂町 13**

創業寛政元年(1789年)。信州の織物の行商人をしていた清右衛門が、江戸での逗留先としていた麻布・保科家に勧められ、麻布永坂町でそば屋をはじめた、といわれている。開店に際し、清右衛門は太兵衛に名を改め、開店時に「信州更科 布屋太兵衛」との看板を掲げた。「更科(さらしな)」は、蕎麦の産地である信州更科と保科家の科の文字を組み合わせたものである。信州は当時より蕎麦の産地であったため、他にも「さらしな」を名乗る蕎麦屋は存在したようである。

**日本の近代化のさきがけになった麻布台界隈**

■麻布台周辺は、発掘された旧石器時代や縄文、弥生時代の遺物から、歴史の中の変化やその中で活躍する人々の息吹までが残る場所のひとつです。幕末には、現在では迎賓館にあたる「赤羽接遇所(赤羽根外国人宿所)」が置かれ、界隈の特徴である国際化のきっかけとなりました。“面白そう”このことばがぴったり。その躍進を未来にも伝えられるよう、今日、歩いてみましょう。

■出会いの場、外交、文化、教育、政治、各地からの人々、各国の料理、ファッション、美術、文学、ビジネス、建物、音楽、宗教、人々の自主活動と公共の協力を切望している世界中の人々の夢が最も実現する可能性のある土地です。

■江戸時代、麻布台は大名屋敷や旗本・御家人の屋敷などの武家地が大半を占め、東麻布の古川沿いは船運の荷揚げ場などに利用されていました。麻布台に通じる道にはいくつもの坂があり、それぞれ由緒が伝えられています。大名屋敷跡は、現在では地区の公共施設や大使館に利用されています。第二次世界大戦時にはゾルゲ事件の舞台にもなり、現在でも国際関係上立場を異にするロシアとアメリカ、そしてアフガニスタンの施設が500mも離れない場所にあるとても特異な街といえます。

**麻布台界隈の土地の記憶**

①麻布小学校・麻布郵便局・外務省飯倉公館

江戸時代  
明治6年(1873年) 出羽米沢藩上杉家中屋敷  
明治35年(1902年) 紀州徳川家邸宅になる(麻布小学校)  
昭和3年(1928年) 南葵文庫開館(熱海に移築 ウィア・テル・ソル)  
昭和5年(1930年) 中華民国公使館(外務省飯倉公館)  
通信省貯金局庁舎(麻布郵便局)

②ロシア大使館(旧ソビエト大使館)

江戸時代  
明治初期 陸奥三春藩秋田家中屋敷  
明治30年代 秋田映季邸宅になる  
昭和5年(1930年) 鍋島直柔邸宅になる  
ソビエト大使館建築

③東京アメリカンクラブ

江戸時代  
明治5年(1872年) 出羽新庄藩戸沢家上屋敷  
明治39年(1906年) 戸沢正実邸宅になる  
昭和29年(1954年) 南満州鉄道・東京支社になる。  
(その後東京満鉄倶楽部になる)  
東京アメリカンクラブ竣工

④麻布永坂町

江戸時代  
明治9年(1876年) 石見浜田藩松平家下屋敷  
大正13年(1924年) (地図) 島津忠寛邸の記載がある  
(地図) 三井永坂町家邸の記載がある  
(戦前まで居住)

幕末期の麻布台界隈 1862年(文久2年)



出典：御府内場末往還基外沿革図書(港区近代沿革図集)

麻布台・麻布狸穴町・麻布永坂町・東麻布  
**歴史散策マップ**

平成25年3月 編集：あざぶ達人倶楽部中級魅力発信チーム

麻布台周辺地区 街歩きルートと解説ポイント

**凡例**

- 街歩きルート (Green line)
- 解説ポイント (Circle with number)
- 地下鉄 (Grey line)



- 麻布台周辺地区 解説ポイント**
- ①横川省三記念公園
  - ②ミンスクの台所
  - ③麻布小学校
  - ④インターナショナル・クリニック
  - ⑤外交史料館
  - ⑥麻布郵便局
  - ⑦麻布几号水準点
  - ⑧一乗寺
  - ⑨真浄寺
  - ⑩東京アメリカンクラブ
  - ⑪日本経緯度原点
  - ⑫熊野神社(八幡神社)
  - ⑬ノアビル
  - ⑭瑠璃光寺
  - ⑮心光教院
  - ⑯飯倉公園
  - ⑰中の橋
  - ⑱ブリッストン美術館永坂分館
  - ⑲和朗フラット
  - ⑳永坂更科



<sup>よこかわしょうぞう</sup>  
① 横川省三記念公園 麻布台 1-4-6

元朝日新聞の記者で、日清・日露戦争では海軍従軍記者として活躍した横川省三(1865～1904)を記念して造られた公園。1938年、遺族保存会から寄付された邸宅跡(現六本木3丁目)に公園を造ったが、1964年の首都高速道路工事のために現在地に移された。園内にはカエルの形をしたかわいい水飲みがある。横川省三は千島列島探検記連載、日清戦争記者としての活躍後、日露戦争開戦に際し徴用。ロシア軍輸送鉄道爆破のため、ラマ僧に変装して中国東北部に潜伏するが、ハルピンで拘束、処刑された。戦争や悲しい思いをした人たちのことを忘れてはいけない。



② ミンスクの台所 麻布台 1-4-2

仙台市と姉妹都市のミンスク市(ベラルーシ共和国)の本場の味を提供している。現地の手芸品が飾られ懐かしいやさしさにあふれている。料理はパブリカ、ピーツ、サーワクリーム、ハーブを利かせた色鮮やかなまろやかな味。そば料理もある。



③ 麻布小学校 麻布台 1-5-15

創立は1872年。戦後は子供の数が多く、100周年には各学年が120名以上もいた。現在は各学年1クラス(22—33人)とこじんまりした構成になっているが、子供たちは元気を一杯伝えている。4年生の想像力あふれる作品が通学路である地下横断歩道の壁面を飾っている。学校前の掲示板には、この地には以前日本初の私立図書館南葵文庫や、育英資金による若者寮が開設されていたことが記されている。そのの坂は行合坂と称されて、昔も魅力あるひとびとが往来していたことがしのばれる。



④ インターナショナル・クリニック 麻布台 1-5-9

1924年ハルビン郊外のヤープロニヤに生まれたエフゲーニー・ニコラエビッチ・アクションノフが開業した保険外診療専門のクリニック。日本語、英語、ロシア語、ギリシャ語、中国語が堪能で世界各国の人々を長年人道的に治療してきた。その功績により数々の賞を受賞した。



⑤ 外交史料館 麻布台 1-5-3

外交史料館は、わが国外交において歴史的価値のある記録文書を保存管理し、利用に供するとともに、外交史料の編さんを行う外務省の施設である。所蔵する特定歴史公文書は、「戦前期外務省記録」を中心とする幕末から第二次世界大戦終結までの記録と、歴史的価値があるとして受け入れた戦後期の外交記録文書がある。(閉架式)開館日時:月曜日～金曜日午前10時～午後5時30分 本建物は1971年に竣工し、設計は吉田五十八による。一般の方には別館展示室がお勧め。国書、親書が展示されている。



⑥ 麻布郵便局 麻布台 1-6-19

麻布郵便局は鉄筋コンクリート造り4階建の建物である。現在は民営化で日本郵便株式会社になっているが、もとは旧逓信省貯金局の庁舎として1930年に建てられた。大規模で重厚な雰囲気漂わす建物で、玄関や窓の装飾にアールデコ風なデザインを、外壁はスクラッチ・タイルが用いられ、昭和初期のモダンさがうかがえる。(スクラッチとは引掻き傷の意味)



<sup>あざぶきごうすいじゅんてん</sup>  
⑦ 麻布几号水準点 麻布台 2-1-1 先(ロシア大使館北東)

水準点とは水準測量に用いる際に標高の基準となる点のことである。全ての水準測量の基準となる日本水準原点は千代田区永田町の国会前の庭園内に設置されている(原点数値:東京湾平均海面上 24.39m)。明治初期に内務省地理寮(国土地理院の前身)が高低測量の標識を、全国の地図作成の基礎とするため各地に測量標(几号水準点)を設置した。設置された几号水準点の一部は、なお各地に現存しているが、現行の水準点としては使われていない。



⑧ 一乗寺 麻布台 2-3-22

1648年創建にされた日蓮宗の寺院。開山大乗院日達上人は三田薬王寺、恵比寿法雲寺の開基でもある。お祀りしています祖師像は、その彫刻手法から推定すると鎌倉後期か室町前期の制作と伝わり、別に高村光雲作の祖師像が安置されている。徳川初期の大名本多正純が合祀されている。



総けやき造りの本堂、庫裏は1945年の戦災で焼失。1970年に本格的復興をとり、1988年庫裏が7階建のビルとなっている。

⑨ 真浄寺 麻布台 2-3-18

一乗寺の隣のお寺で、こちらには新撰組最後の生き残り池田七三郎こと、稗田利八の墓所がある。



⑩ 東京アメリカンクラブ 麻布台 2-1-2

東京アメリカンクラブ(TAC)は1928年に設立された会員制社交クラブ。2011年再開発によって最先端ビルに生まれ変わった。多彩な文化プログラムが用意されており、日本の文化の紹介や世界から訪れる人々の交流の場として図書館、宴会場、複数のレストラン、プール、ジム他運動施設がある。フランク・ロイド・ライトのモニュメントが進行方向左に置かれていて、この地の歴史を物語る石灯籠が入口にある。地域とも有意義な交流が行われている。現在、様々な国籍の3,300人前後が会員である。



⑪ 日本経緯度原点 麻布台 2-18-1(地番)

1892年、この場所が東京天文台の経緯度観測の観測台である子午環の中心に定められた。その後、関東大地震により子午環が崩壊したため、1961年に金属標を設置し日本経緯度原点を再現。1924年まで東京大学東京天文台が所有していたが、その後、北多摩郡三鷹村に移転。その跡は東京大学天文学教室の所属となり、1960年本郷移転まで学生の講義、実習に充てられた。なお、この原点標は2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震によって真東に約27cm移動したため、測量により原点数値が変更された。



⑫ 熊野神社(八幡神社) 麻布台 2-2-14

現在は熊野神社となっているが古くは熊野宮と称していた。何度も火災に遭い、記載の古書及び宝物等はことごとく焼失し、創立年代など詳細は不明。社務所発行のパンフレットによれば「凡そ南北朝時代には、現今の地に鎮座せるものと推定されます。」と記されている。その後も度重なる喪失、改築などもあったが、2010年5月に竣工し、現在の境内となった。



⑬ ノアビル 麻布台 2-3-5

飯倉交差点に位置するランドマークとも言えるオフィスビルで、外観下層部は赤

レンガで作られ、上層部は硫酸銅仕上げの楕円筒形、内装は窓を少なくし、石で静かな空間を構成し、かつ豊かさを取り入れている。1974年竣工で、設計は白井晟一による。



<sup>るりこうじ</sup>  
⑭ 瑠璃光寺 東麻布 1-1-6



五重塔で有名な山口県の瑠璃光寺の別院として慶長年間1614年に開山された。江戸幕府が行っていた参勤交代制度により当時の播磨赤穂2万石森家の藩主が江戸に詰めている時には菩提寺としての役目を果たしていた薬師如来である。正式には「薬師瑠璃光如来」といわれ、病気を治してくれる

仏さま。

瑠璃とは、宝石のラピスラズリのことで、遙か東方の薬師如来の治める国は瑠璃世界と呼ばれていると経典に説かれている。

<sup>しんこうきょういん</sup>  
⑮ 心光教院 東麻布 1-1-5



1763年に造られた表門は国の登録有形文化財。一間一戸の四脚門で、切妻造本瓦葺、朱塗の門である。1955年に造られた本堂は向拝の紅梁や裏股、内部の欄間などに、戦後独特の繊細な意匠が見られる。境内にはお竹大日如来があり、寺は「江戸名所図会」にも描かれている。

<sup>あかばねつづくしよ</sup>  
⑯ 飯倉公園 \* 赤羽接遇所あと 東麻布 1-21-2

元々は講部所付属の訓練所だったが、安政年間1859年外国人の為の宿舍兼接待所として設立された。黒の表門を持ち、黒板塀に囲まれた二棟の木造平屋建てであった。幕末にプロシアのオイレンブルクやシーボルト父子等が滞在した。現在は飯倉公園となっている。尾張屋版の「東都麻布絵図」に「外国人旅宿」とある。



⑰ 中の橋 \* ヒュースケン遭難の地 東麻布 2-35 先

赤羽接遇所からほど近い中の橋付近で、万延年間1861年アメリカ公使ハリスの通訳であったオランダ人ヒュースケンが暗殺された。その当時ヒュースケンが、度々赤羽接遇所を訪れて日本とプロシアとの条約締結の通訳を務めていた。過激な尊王攘夷派が外国人を襲撃してヒュースケンはそのターゲットとなってしまった。犯人は清河八郎率いる攘夷派グループといわれている。ヒュースケンの墓は南麻布の光林寺にある。



⑱ ブリジストン美術館永坂分館(石橋財団事務所) 麻布永坂町 1

麻布永坂の高台の閑静な一角に白亜のモダンな建物があり、その中にタイヤメーカーで知られるブリジストンの石橋家が収集した美術品を展示するブリジストン美術館永坂分館がある。

開館日:月曜日～金曜日 午後1時～4時



麻布台に暮らした人々

伊丹十三(俳優・映画監督)、伊藤整(小説家・文芸評論家)、小山内薫(劇作家)、水上瀧太郎(小説家・実業家)、梶井基次郎(小説家「檸檬」)、楠本イネ(シボルト娘・産科医)、島崎藤村(小説家「夜明け前」)、ソルゲ(ドイツ人ジャーナリスト)、高峰秀子(女優)、松山善三(映画監督)、三好達治(詩人)、和田芳恵(樋口一葉研究者)

⑲、⑳は次頁にあります。⇒